

ニッティド 株式会社

ものづくり技術

一般型

5本指ソックスのリーディングカンパニー 基幹システム導入による業務プロセスの強化改善

事業内容 世界品質の5本指ソックス 特許技術と販路に強み

1926年(大正15年)に軍手工場として創業し、1981年(昭和56年)に5本指ソックスのマーケットを開拓すべく、現会長である井戸端隆宏氏がニットグローブ株式会社を設立。それ以来、5本指ソックスメーカーとして成長し、業界内でも相応の知名度を有するようになった。2000年からは自社ブランド「ラサンテ」を国内で展開し、2006年には自社ブランド「KNITIDO(ニッティド)」を冠した社名に変更、世界的なブランド確立に乗り出した。

5本指ソックスの製造をスタートさせた当初は、見た目が悪く、はきにくく、値段が高いという問題があり、なかなか市場に受け入れられなかった。そのような状況の中で、同

社が足の形に立体的に編む技術を開発し、特許を取得。はき心地を追求したことに加えて、陸上・野球・バレーボールなどのスポーツ分野で愛用されはじめ、ファッション性が開花するにつれて、徐々に普及が進んだ。特に健康面での効果が検証されたことが5本指ソックスの愛用者の増加へと繋がった。

同社の強みは、特許技術だけでなく、長年をかけて構築してきた販路が挙げられる。靴下専門店、百貨店、スポーツアパレル、通信販売向けなど販売チャネルは多岐にわたる。長年の取引実績と高い製品力で、同業他社が参入することができない販路も持っている。

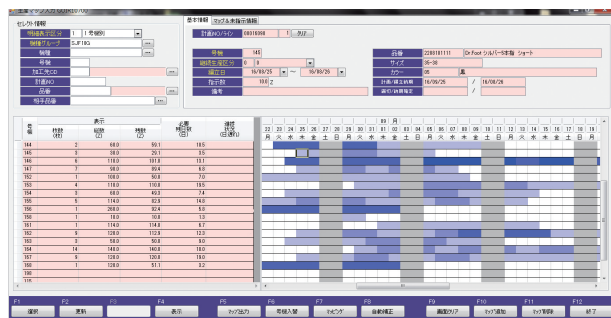
補助事業 基幹システム導入による 多品種・小ロットへの対応

同社は50社余りの得意先を有するが、近年、得意先から多品種小ロットの要望が増えてきている。また、今後は自社ブランドを積極的に展開していく方針であることから、得意先の増加が想定された。

得意先の増加と製造品目数の増加から生じる問題点としては、まず在庫管理が挙げられる。在庫管理に加え、生産量をどのように管理・調整していくかは差し迫る課題であった。また、仕入から販売までの工程の複雑化も予想され、製品の納入がいつになるのかを明確に得意先に伝えられなければ、信頼を損なう可能性がある。工程を細分化し、システム管理を進めていく必要が出てきた。

そこで、今回の補助事業では、新しく基幹システムを導入し、生産管理プロセスの強化・業務改善を行った。同業他社では生産管理システムを充実させている企業があまり

なく、同社が率先して進めていくことで、5本指ソックスのリーディングカンパニーとしての地位をより盤石にしていきたいという思いもある。



▲基幹システム
生産MAP(編機別生産状況一覧)

ニッティド 株式会社

代表取締役社長 井戸端 康宏
〒649-0121 海南市下津町丸田68-1
TEL: 073-492-0077 FAX: 073-492-4192
URL: http://www.knitido.co.jp

〈業種〉靴下製造
〈創業〉1926年9月
〈資本金〉98,000千円
〈従業員〉54人

成果

生産工程の「見える化」を実現 データに基づく全体の最適化

新しい基幹システムの導入によって、生産工程の「見える化」を実現することができた。これまでは感覚的に行っていた判断も、全て客観性のある数値的な根拠を持って判断することができるようになった。また、基幹システムを導入し、グラフなどでビジュアル化すること自体は簡単であるが、同社の場合はそれにとどまらない。掲示板に時間あたりの生産量(1人)や各工程の混み具合などを示し、常に改善案を出し、どうすべきかを従業員一人一人が考えて試行錯誤している。代表の井戸端康宏氏が先頭に立ち、全体の最適化を図っている。

これらの取り組みが功を奏し、得意先各社からは納期面の厳密性に関してより高い評価が得られるようになり、また納期面での厳しい要求に対しても根拠のある明確な数値で示すことができるようになった。工程が見える化でき

ているため、営業担当者も得意先に向けて生産現場の状況を考慮した対応ができています。

ただ、今回の工程管理の見える化によって課題を抱える工程もわかってきた。商品供給の安定化に向けて、今後はこれらの工程の改善を図っていく。



▲生産・品質管理・改善活動掲示板

今後の展開

管理レベルの一層の強化を図り 自社ブランド品の開発に力を注ぐ

生産効率の向上が納期の安定化に貢献し、得意先からの信頼獲得につながる。この取り組みをどれだけ誠実にやっていけるかが重要であると考えている。特に生産効率に関しては、作業工程の自動化を進めていくことでより一層高めていきたいとしている。

ただ、このように効率化を進めていくだけでは充分ではない。機械のできる部分と機械ではできない部分をしっかりと見極めながら、経営資源を分配していくことが肝要で

あると考えている。最終的には、各工程・各担当者の今日やるべき事が明確になっている状態を目指す。

さらに、管理レベルの向上と合わせて、自社ブランド品の開発力も強化していきたいとしている。消費者のニーズを反映した製品を作っていくというよりはむしろ生産者志向で、ニーズの前段階のシーズを製品化し、日本に限らず世界を視野に入れ、市場の創造を目指していく。



▲多様な5本指ソックス



▲保有する産業財産権
特許 10件、意匠 13件